

『新小山市立博物館整備基本計画』にかかる 新小山市立博物館整備検討懇話会からの主な意見と質疑について

■ 博物館の収集方針・収蔵施設等について

- ・取り扱う分野を考古・歴史・民俗・自然の4分野を設定しているが、古美術の取扱はどう考えているのか。栃木県の場合は、近世以前の資料を博物館が、近世以降の資料を美術館が扱うという線引きがあるが、施設検討の最初の段階で、資料の取扱区分の明確化が必要だと考える。
⇒(事務局)現博物館にも古美術に該当する資料を収蔵している。車屋美術館では近代以降の美術を基本的には取り扱っているが、これを機会に役割の明確化について検討していきたい。
- ・計画では館外の収蔵庫を、新博物館の周辺地に整備するとあるが、あえて館外に収蔵庫を整備する理由を教えてください。
⇒(事務局)新博物館では、館内の収蔵庫と館外収蔵庫の2つを新たに整備する方針である。収蔵庫は館内で完結できるのが理想ではあるが、敷地の制約もあることから、館外収蔵庫を整備する計画としている。資料の収蔵場所については、頻繁に展示を行う可能性のある資料を優先して館内収蔵庫で保管するなど、館内・館外の資料収蔵基準を検討する。
- ・これまで資料の燻蒸に使用してきたエキヒュームガスが販売中止となる。新博物館整備は、整備時期が従来のエキヒュームガスから新たな資料収蔵方法が検討されていく過渡期にあたる。資料は薬剤に頼らず保管することが基本となるため、情報収集等をよく行いながら検討していただきたい。

■ 常設展示について

- ・それだけで人が来てくれるような目玉の展示はあるのか。
 - ・小山の歴史を語る上で、小山氏の存在は非常に重要。
 - ・展示を考えるにあたって、ある程度専門的知識を持っている人と、一般客では興味を持つところが違う。そのバランスを考えて展示を検討してほしい。
 - ・具体的に展示を検討していく際に、職員以外の専門家の意見を入れながら検討できる体制を整えられないか。
 - ・デジタルを取り入れた展示は、使い方を間違えると「現地に行かなくていい」となり、来館者が市内の文化財を訪れない危険性もある。デジタル技術をうまく使いこなしてほしい。
- ⇒(事務局)常設展示については、今回の基本計画の3章展示計画に示す各分野の展示構成案

をもとに、来年度以降展示の詳細を詰めていく予定である。その際には、外部有識者に意見を求めながら、広く市民に興味関心を抱いていただけるような展示を検討していく。

■ 施設計画について

- ・新博物館の建設には県産木材は使用しないのか。
⇒(事務局)収蔵品の調湿の関係で鉄筋コンクリートを基本と考えているが、内装の一部に県産木材を使用することも検討していきたい。
- ・予定地の東側の道路は道幅が狭く、住宅地につながっている道路のため、施設内の駐車場レイアウトを工夫してほしい。
- ・駐車場は大型バスが入れるように動線を配慮してほしい。
⇒(事務局)駐車場の動線等は来年度以降の設計の段階で詳細な検討を行っていく。

■ 博物館内のカフェ等について

- ・カフェ等の設置が難しいのであれば、せめて飲食可能な多目的スペースや、キッチンカーが設置できるスペースを整備できないか。
- ・カフェ・レストランは、賑わいの創出の観点から設置した方が良いのではないか。博物館に興味のない層にも、施設利用を促すことができる。
- ・飲食については、県内の他施設でも社会科見学に来た子供たちがお弁当を食べることができるスペースがない等の課題がある。
- ・とある博物館では、レストランを入れる前提で施設を整備したが、結局運営の採算が取れず、業者が撤退して空スペースになっていると聞く。博物館のカフェやレストランは全国的にも相当収支が厳しいため、そのような状況も踏まえて設置については検討してほしい。

■ その他

- ・地元商工会が新博物館の集客や、館の検討段階に関わることができるように、仕組みを考えてほしい。
- ・現博物館の来館者は自家用車か、バスがほとんどであると思う。新博物館では公共交通機関の充実も併せて考えてほしい。
- ・アンケートの40%が博物館に来たことがないという結果であった。来館してもらえないのであれば、博物館から外に積極的に出ていくアプローチの方法も検討したかどうか。
- ・新博物館では研究成果の発表を強化してほしい。